

第27回 名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会総会 議事録

日 時：令和5年11月24日（金）午前10時～11時

場 所：西尾市役所53ABC会議室

出席者：（構 成 員）西尾市 近藤副市長

蒲郡市 大原副市長

愛知県 都市・交通局交通対策課 山田課長

（オブザーバー）国土交通省中部運輸局 鉄道部監理課 小中課長

名古屋鉄道株式会社鉄道事業本部 牧野副本部長兼鉄道事業

改革室長兼計画部長

[発言要旨]

1 開会（会長：西尾市）

本日の総会は、令和4年度名鉄西尾・蒲郡線の概況、その他として「にしがま線げんき戦略Ⅱについて」現状報告を予定している。

2 報告事項

令和4年度名鉄西尾・蒲郡線の概況について（名古屋鉄道株式会社）

資料1に基づいて報告

3 その他

にしがま線げんき戦略Ⅱに係る現状報告について（事務局：西尾市地域つながり課）

資料2・3に基づいて概要と現状の報告

4 意見交換

(蒲郡市)

- ・名鉄西尾・蒲郡線（にしがま線）の運行については、名古屋鉄道様はもとより中部運輸局様や愛知県様を始めとした関係各位のご支援やご協力に感謝を申し上げます。
- ・コロナ禍の状況は落ち着き、世の中が動き出し、利用者は戻ってきたものの、西尾蒲郡線の利用が以前の水準には戻るのなかなか難しい状況ということを認識している。
- ・燃油高騰、物価高など、今後も鉄道路線維持には、先行きの見通せない状況のなか、これまでにわたり、利用者の皆様に不便なく運行を継続いただけていることに深く感謝申し上げます。
- ・蒲郡市では、以前から続けている名古屋鉄道の「でんしゃ旅」利用者に宿泊施設管内利用券千円分や生命の海科学館入館無料などの特典のついた名鉄利用促進事業について、令和4年度は、利用者11,092人の実績であった。
- ・今年度も4月から6月まで行った全国旅行支援でこの「でんしゃ旅」が、予定を大きく上回っており、9月市議会の補正予算で、4,000名分を追加した。観光のお客さまも戻ってきていると実感している。
- ・これ以外にも、市内の学校行事で、にしがま線を利用した場合に片道運賃の補助を行っている。
- ・蒲郡競艇場前駅があるが、ボートレース蒲郡に降りていただく場所である。ボートレースとしても、にしがま線の利用促進として、帰りの切符を提示していただくと、場内で使える食事券を配布している。こうした、蒲郡市独自の利用促進の施策を行っている。
- ・蒲郡市では、西浦駅前に新しい待合所を建設するための設計案を募る「がまごおり公共建築学生チャレンジコンペ2023」を今年開催し、全国の建築学生からの提案を募り、377の提案があった。横浜国立大学大学院の女性3人による作品が最優秀となった。最優秀作品をベースに令和6年3月の完成に向けて準備を進めているところである。西浦温泉の玄関口、地域の方の玄関口として、新たなシンボルとなるよう活用していく。
- ・西浦温泉と三谷温泉の老舗旅館において、客室を企業のサテライトオフィスとして貸し出すサービスも提供を開始している。
- ・今年度は、西尾市制70周年となる。復刻塗装列車の運行など、利用促進につながる事業を展開していただいている。
- ・先月には、金山駅構内にオープンされた地域PRショップのIKO→MaIで、名鉄西尾蒲郡線活性化協議会をトップバッターに選んでいただき、非常に人通りの多い、賑わいのある場所で、西尾市、蒲郡市のPRの場をご用意いただいた。
- ・来年は、蒲郡市が市制70周年となる。蒲郡市としましても、にしがま線を一人でも多くの方に、ご乗車いただけるよう誘客、活性化の取り組みを継続していく。
- ・現在の運行合意が、令和7年度までなので、令和8年度以降の運行についての合意に向け、今後とも、名古屋鉄道様をはじめとする関係者の皆様には、引き続きのご指導ご支援をお願いする。

(愛知県)

- ・はじめに、西尾・蒲郡線の厳しい経営状況の中、公共交通の担い手として、運行を継続していただいている名鉄と、運行支援を続けられている西尾市と蒲郡市に敬意を表する。
- ・にしがま線について振り返ってみると、この協議会は平成17年に設立され、関係者による真剣な協議や合意のもと、運行の継続がなされている。この間、利用者数は着実に増加してきた。コロナ前になるが、2018年度には340万人の年間利用があった。ちょうどこの協議会が立ち上がった時と比べると16%の増加で、人数として約50万人の増加となっており、皆様のご

尽力の賜物だと考えている。そうした中、コロナという非常に厳しい状況があった。利用者の約1/4がいなくなってしまった。

- ・2021年度に、コロナ前の利用者数を目標とする「にしがま線げんき戦略Ⅱ」が関係者によって作られ、5か年でコロナ前まで利用者を戻すことになったと承知している。この間、様々な利用促進と誘客推進に取り組んでいただいております、利用者の増加に一定の貢献があったと考えている。

- ・にしがま線の利用者はコロナ禍による落ち込みから徐々に回復しつつある。直近の輸送人員は約9割まで戻ってきており、これも西尾市と蒲郡市のご尽力の賜物であると考えている。

- ・しかしながら、計画の最終年度である2025年度に向けては、まだ1割の増加が必要であるが、定期外利用者のみならず、安定的な輸送需要に資する通勤・通学など定期利用者の増加にも重点的に取り組む必要がある。県としても様々な形で一緒になって取り組んでいきたいと考えている。

- ・本県では「休み方改革」の一環として、今月21日から27日までの「あいちウィーク」期間中に、県内の公立学校において期間中の1日を休業日とする「県民の日学校ホリデー」を創設したところ。

- ・西尾、蒲郡の両市には、小中学校の休業に加え、様々なイベント開催や公共施設の割引などで、名鉄には子ども用フリー切符の特別価格での販売などで、それぞれ多大なご協力をいただいております、感謝申し上げます。沿線の「愛知こどもの国」でも料金割引を実施するなど、全体で300を超える連携事業が予定されており、是非、この機会に、皆さんご家族で、各地にお出かけしてもらうことを期待している。また、これを契機とした公共交通の利用促進にも取り組んでいきたい。

(中部運輸局)

- ・中部運輸局鉄道部監理課の小中です。日頃は国土交通省の業務にご理解とご協力をいただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。

- ・新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから半年ほどが経過。観光地や名古屋駅などで多くの方が行き交う姿を見ると、新型コロナウイルス感染症の影響は過去のものになったのではと感じている。

- ・鉄道利用者を数字で追ってみると、5類移行後もコロナ前の8割から9割程度の輸送人員であり、運送収入も厳しい状況が続いている。

- ・加えて、物価高騰や燃料高騰の影響もあり、事業運営を継続していくには苦しい環境になっていると認識している。

- ・そのような中でも、西尾・蒲郡線では西尾市、蒲郡市、名古屋鉄道の3者で連携をとり、様々な利用促進の取り組みをしていただいております、日頃のご尽力に敬意を表す。

- ・こういった取り組みについて、運輸局についても様々な場面で可能なところでお手伝いをさせてもらう。皆さんで知恵を出し合って、西尾・蒲郡線を持続可能な公共交通として盛り上げていただきたい。

- ・定期外の利用者に対する取り組みはたくさんやられているが、通勤・通学の定期利用者も地道に利用促進をお願いしたい。特に通学は戻ってきていないので、対策をお願いしたい。

(名古屋鉄道株式会社)

- ・一昨年12月に締結した「名鉄西尾・蒲郡線に関する連携合意書」に則り、沿線の活性化につきまして従前以上の様々な取り組みをご展開いただき、重ねて御礼を申し上げます。

・弊社全線の近況としては、先日第2四半期決算を発表したところですが、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行を受け、鉄道事業収益が前年に比べ回復したものの、テレワークなど新常态の定着やマイカー通勤へのシフトなど今後も輸送需要はコロナ前の水準に戻らない見込みであることに加え、電力料金や資材価格高騰といった経費増加の懸念もあり、厳しい状況が今後も続く見込みである。

・そのような中、今後も全線において事業を継続し、永く地域の皆さまに貢献し続けるためには、安全・安心・安定輸送の確保に必要な対応を着実に実施していく必要がある。

・現在、進めている駅員無配置化やワンマン化や需要に応じたダイヤ適正化などの経費削減や沿線活性化といった経営努力を今後も継続して行った上でもなお、費用が不足するというところで、その一部についてお客さまにご負担をお願いさせていただくため、今春国交省に運賃改定を申請し、徹底した経費削減を前提に9月1日に認可されたところ。

・当路線においても、先程担当より報告しましたとおり、昨年度の実績において、経常損失は7億8千万円に悪化し、一民間事業者の自助努力だけで路線を存続させていくことは極めて厳しい状況が続いている。

・コロナ影響による新たな生活様式の定着を受け、鉄道需要は大きく変化しており、路線の存続にあたっては、その変化への対応が差し迫った課題である。当路線においても、地域の皆さまと連携しながら、更なる鉄道利用増加に向けた利便性向上や観光推進の取組みを進め、引き続き経営合理化と費用削減に努めるとともに、本路線の将来像について、地域の皆様と共に検討していきたい。

・地域の皆さまにおかれましても、引き続き弊社との連携を強化して頂くとともに、沿線の活性化等にご尽力頂きますことをお願い申し上げます。

(西尾市)

・本日の報告事項にありましたとおり、西尾・蒲郡線については、新型コロナウイルスが収束している現在においても、利用者の戻りが悪く、厳しい利用状況が続いている。

・そんな中、名古屋鉄道様においては、引き続き安全な運行にご尽力いただくとともに、令和3年12月に締結した西尾市と蒲郡市、名古屋鉄道様の3者による連携協定に基づき、これまで以上に協力体制を強化し、沿線地域の魅力向上と収支改善に努めていただいていることに、改めて感謝申し上げます。

・利用促進策として、昨年度は、白帯（はくたい）車両の復刻に始まり、ミュージスカイの貸し切り列車の運行、愛知こどもの国と連携して取り組んだ「駅メモ」アプリのデジタルスタンプラリーなどで市外から多くの集客を図った。

・今年につきましては西尾市制70周年記念も相まって、沿線観光のPRを兼ねて、9月には名古屋駅前でのナナちゃん人形に抹茶の妖精をイメージした服装を着用させたり、名駅構内のデジタルサイネージをジャックしたプロモーション事業を実施したほか、大正ロマンをイメージした貸し切り列車を使ったレストラン、電車内でのにしがません絵画コンクール表彰式の実施、ライトピンクとダークマルーンの復刻塗装列車の運行、さらには電動キックボードを活用した駅からの二次交通の実証実験を行うなど、新しい企画にも果敢に取り組んできた。

・全国鉄道サミットを西尾市に誘致するなど、地域住民や官民の連携により、沿線の魅力を体感していただけるような各種イベントを充実させているところ。

・名鉄西尾・蒲郡線は、西尾市の公共交通の基軸を成し、その存続は本市のまちづくりには、欠かすことのできない最重要事項である。今後とも利用促進及び市外からの誘客推進に努めてまいりますので、ご出席の皆さまには、その点をしっかりとご認識を頂きまして、引き続き、ご支援とご協力をお願い申し上げます、議事を終了。